

自治体の課題、現状

羽後町では町内唯一の中学校である羽後中学校において、令和3年度から運動部活動の休日の地域移行に取り組んできた。3種目から始めた本実践は、今年度、8種目まで拡大し、携わる指導者の数も徐々に増えてきている。参加生徒の満足度は高く、地域移行のメリットが確認されている。しかし、これまでの部活動文化が根強く、関係者や保護者からは、地域移行に対する不安の声も依然として多い。また、年々生徒数が減少する見込みであり、今後は、中学生だけ、町内だけでのチーム編成が困難になることが予想される。羽後町の中学生が、自分がやりたいスポーツに安心して取り組むことができる環境づくりのために、学校関係者を含む地域の方々の理解を得ること、そのための持続可能な体制をつくっていくことが課題となっている。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	306人
域内の部活動数	18部 (運動部15部)	実施した地域クラブ数	8クラブ
全体の指導者数	12人	全体の運営スタッフ数	1人
主な運営団体	羽後町体育協会		
主な種目	陸上競技、軟式野球、バレーボール、卓球、ホッケー、ハンドボール、柔道		
平均的な活動回数	3回/月	年間平均参加生徒実数	3年：7.5人/クラブ 2年：5.6人/クラブ 1年：6.6人/クラブ
参加会費	400円/年	主な活動場所	羽後中学校 町管理施設

地域移行関連の取組、成果

- ①羽後町体育協会を中心とした運営体制の構築及び人材の確保について、**現状の共有と、持続可能な組織体制の整備に向けた協議を重ね**、次年度以降の見通しをもった。
- ②**一定期間に限定して依頼**したり、新たな指導者については**複数体制の中で試行**する期間を設けたりすることで、複数種目において新たな指導者、協力者を確保することができた。
- ③平日・休日の一貫指導を実現するため、**部活動指導員を活用する種目を設定**した。
- ④指導者の派遣や研修会の実施等について、**関係団体と連携**を図った。
- ⑤**各種目の実情に応じた期間を設定**し、地域移行を実施する種目を前年度よりも増やした。
- ⑥生徒へのアンケート調査結果を踏まえ、**既存のスポーツ教室を活用し、部活動以外の「スポーツに親しむ機会」の整備**を行った。

運営体制図

